

東京都公文書館だより

Tokyo Metropolitan Archives News

第9号

【編集・発行】

東京都公文書館

平成18年度登録第3号

平成18年11月発行

【印刷】

(株)まこと印刷

[公文書館の書庫から] 幕臣の家、先祖の記憶 —幕臣目黒家伝来「由緒書・親類書・遠類書」—

・幕臣の由緒書 今年度、幕臣目黒家の御子孫の方から、貴重な史料を御寄贈して頂きました。ここではみなさんにその内容を御紹介したいと思います。目黒家が幕府に提出した先祖代々のいわゆる履歴書、「由緒書・親類書・遠類書」（以下「由緒書」と記す）という史料です。

幕臣の人名や履歴を調べることは意外にやっかいです。それらを知るには、おもに「武鑑」「柳営補任」「寛政重修諸家譜」がありますが、何れも重立った役付きの人物やある時期までの限られた家の系譜しかなく、目黒家の記述はありません。

そのほかに、幕末における下級武士を含めた幕臣の膨大な履歴情報が国立公文書館多聞櫓文書にあり、それらを人名事典化したものが熊井保編『江戸幕臣人名事典』（改訂新版、新人物往来社、1997）です。しかしこれにも同文書の残存状況に問題があり、幕臣すべてを紹介し尽くしたものではありません。この事典にも目黒家は記載されていませんから、「由緒書」は貴重な史料です。

・目黒家代々の記録

この「由緒書」を読むと、目黒家は、幕臣としてのランクは決して高くはないものの、17世紀からのふるい歴史をもっていることがわかります。「由緒書」を幕府に提出したのは、幕末の目黒家当主、江戸城西丸御台所番を勤めた目黒徳

之助で、「由緒書」末尾の記述により安政5年（1858）3月に提出したことがわかります。

「由緒書」によると、目黒家の一番の遠祖は、徳之助7代前の与惣兵衛です。彼は2代將軍徳川秀忠治世の元和8年（1622）、畔柳助九郎組の御中間として召し抱えられています。この与惣兵衛には長男市郎右衛門・次男長兵衛のふたりの子があり、家は長兵衛が継ぎ、市郎右衛門が「別規」に召し抱えられます。各々の子孫は幕末まで続きますが、市郎右衛門の流れが徳之助の目黒家となります。

2代目市郎右衛門が石之間番人をつとめ、3代目左衛門もそれを継ぎますが、のちに西丸小間遣などの小間遣役を歴任し、田安簾中台所人を勤めます（役高含め40俵1人扶持）。

この縁で、4代目清七郎・5代目鉄之助・6代目鉄次郎も、おおむね台所関係の役職を踏み、徳之助父の7代目半平は西丸で小間遣などをつとめたのち、御先手組同心となります。この御先手組には鉄炮組と弓組があり、半平は鉄炮組のほうに属していたと考えられます。彼は鉄炮の腕がよかったのか、文化14年（1817）・文政4年（1821）の両度の射撃訓練で的にすべてを命中させて（史料では「皆中」）、白銀1枚の褒美を貰っています（このような褒賞も「由緒書」の記述の対象であり、このほかに、たとえば、半平の上野凌雲院普請勤番に対しての褒美や、徳之助の小金原鹿狩出張にたいしての手当の記述もあります）。8代目徳之助は、半平の跡をついで御先手組同心を勤めたあと、西丸御台所番を勤めています。

目黒家歴代の履歴の職種には、①石之間番人、②小間遣、③御先手組、④台所関係の4つの傾向があることがわかります。概ね①～③へと推移し、



目黒家「由緒書」の冒頭部分

東京都公文書館だより

④の台所関係は、3代目から8代目にかけて、ひろくみられます。

維新後も徳之助は明治政府に朝臣として仕え、「由緒書」にある元高17俵1人扶持を政府か

らそのまま支給されています（東京都公文書館所蔵、明治2年「朝臣姓名・一」605.A8.01）。

このように、目黒家文書は江戸城を下支えした幕臣の家の歴史を現在に物語っています。

幕臣目黒家系譜

（目黒徳之助代 高30俵2人扶持 元高17俵1人扶持・足高13俵1人扶持）

| 代目 | 生年 | 没年 | 名前 | 事歴 |
|-----|------|------------|---------------------|--|
| 1代目 | — | 延宝5年6月 | 目黒与惣兵衛 | 元和8年、畔柳助九郎組御中間に召し抱えられる。 |
| — | — | — | 目黒長兵衛 (与惣兵衛次男) | 与惣兵衛跡は長兵衛が継ぐ。この子孫、塩谷備後守支配馬方書役を相続している。 |
| 2代目 | — | 元禄6年 | 目黒市郎右衛門 (与惣兵衛惣領) | 承応元年9月別規に召抱えられ、石之間番人。 |
| 3代目 | — | 寛保2年5月 | 目黒伝左衛門 (市郎右衛門子) | 元禄6年石之間番人。宝永2年西丸小間遣。宝永6年12月法心院殿小間遣。享保20年10月田安簾中台所人(このとき役高含め40俵1人扶持)。 |
| 4代目 | — | 延享元年5月 | 目黒清七郎 (伝左衛門子) | 享保19年表小間遣。寛保2年8月3日伝左衛門跡相続、表御台所頭支配無役。11月14日表御台所人。 |
| 5代目 | — | 宝暦12年8月27日 | 目黒鉄之助 (清七郎子) | 延享元年8月2日、清七郎跡相続、表御台所頭支配無役。 |
| 6代目 | — | 享和2年10月28日 | 目黒鉄次郎 (鉄之助子) | 宝暦12年11月8日鉄之助跡相続、表御台所頭支配無役。明和元年閏12月24日小普請入。寛政3年10月10日御役御免。 |
| 7代目 | — | 天保13年5月18日 | 目黒半平 (鉄之助婿養子) | 寛政7年3月3日婿養子入り。享和2年12月24日鉄次郎跡相続、小普請入。文化元年5月西丸小間遣引下ケ勤。文化2年正月西丸御膳所小間遣。文化5年3月西丸表小間遣。同年11月小普請入。文化9年8月御先手同心。文化13年12月上野中堂其外御修復中勤番につき御褒美白銀1枚頂戴。文化14年8月鉄炮十打撰見分皆中につき御褒美白銀1枚頂戴。文政4年7月同断につき御褒美白銀1枚頂戴。文政8年4月上野凌雲院御位牌所向其外御普請中勤番につき御褒美白銀1枚頂戴。天保12年12月20日小普請入。 |
| 8代目 | 文政3年 | — | 目黒徳之助 (半平養子) | 天保11年11月28日養子入り。天保11年12月12日御先手同心見習。同12年12月18日見習勤御役御免。天保13年8月6日養父跡相続、小普請入。弘化3年2月29日御先手同心。嘉永2年3月小金原鹿狩の際松戸金町勤番日割扶持頂戴。嘉永6年3月29日西丸御台所番。 |

東京オリンピック関係資料 ～展示報告～

平成18年7月19日から8月8日まで都庁第一本庁舎展示ホールで開催された、“オリンピック特別資料展 1964 東京オリンピック、そして今”（東京都教育庁〈東京都立図書館〉・東京オリンピック招致本部主催）に協力して、当館が所蔵する東京オリンピック関係資料を出展しました。



当館では、オリンピック関係資料として公文書のほか、図書・庁内刊行物・アルバム・ポスターなどを所蔵しています。

特に今回初めて出展した第18回東京オリンピック大会関係文書は、招致運動の始まりから、オリンピック終了に至るまでの文書をほぼカバーしています（公文書等約3,700件 報告書約60冊）。

この中には、東京都オリンピック準備局で作成した10年保存以上の文書がほとんど揃っているため、かなり細かい事項まで知ることができます。

これらの文書は、個人情報等公開できないものを除き、全てご覧いただけます。

資料の概要については、東京都公文書館だより第8号でも紹介しておりますので、ぜひご参照ください。

今回出展した資料は、以下の20点です。

- | 資料名 | 請求番号 |
|---------------------------------|---------|
| 1. 招致電報送付公文書 | M04-5-1 |
| 2. 招致事務局設置公文書 | L04-1-1 |
| 3. 第17回大会招致用アルバム『TOKYO』（資料とパネル） | オ |
| 4. IOC第54次総会アルバム写真（パネル） | オ |
| 5. 第18回オリンピック開催候補地に対する | |

質問回答書・付属図面

6. パンフレット『to TOKYO』・リーフレット『Tokyo is for you』（パネル）
- オ
7. オリンピック準備事務局設置公文書 N02-2-4
8. オリンピック東京大会準備協力機構図（パネル）（第18回オリンピック競技大会東京都報告書より作成）
- オ
9. 緊急主要事業関連公文書 M04-3-7
10. 都政とオリンピック（パネル）
- オ
11. 選手村関連公文書 L04-1-13
12. 駒沢公園設計委託図面（パネル）
- L05-6-3
13. 通称道路名設定関係公文書 L04-1-13
14. 通称道路図（オリンピック準備局事業概要1964）（パネル）
- 780.691/オ1/オ39
15. 壁面大型地図パネル「昭和30年代の東京」
- 16/17. 絵新聞「オリンピック東京大会の競技場」（パネル・第8号に資料写真掲載）
- オ
18. 東京都市計画都市高速道路高速鉄道網図「東京都都市計画道路地図復刻集」（平成5年3月 東京都建設局刊）
19. 都市計画街路事業現況図「東京都都市計画道路地図復刻集」（同上）
20. オリンピック関連街路網図 昭和38年（1963）縮尺1/45000
- オ

展示した資料の中からいくつかを、簡単な解説を交えてご紹介します。

（番号は上記出展リストに対応しています。）

1. 戦後初のオリンピック招請公文書

昭和27年（1952）5月起案

東京都は昭和27年5月、安井知事の招致表明後、都議会が全会一致でオリンピック招致を決議したことを受け、同月24日、IOCに対し第17回大会の開催招致懇請電報を送付しました。電報と共に郵送された仮招請状には安井知事のサインが見えます。



4. 第54次IOC総会公式記念アルバム

第18回オリンピック招致の布石として、昭和33年（1958）5月東京でIOC総会が開催されました。その際東京都が共同通信社と契約して作成した公式記念アルバムです。



相撲部屋を訪問するIOC委員一行。握手している力士はこの年3月に第45代横綱となった若乃花関撮影・制作（株）共同通信社

6. パンフレット『to TOKYO』（第18回大会招致ポスター図案） 昭和33年（1958）制作

東京都はオリンピック招致活動のため、昭和33年11月、ポスターデザイナーとして国内外で活躍していた栗谷川健一氏に原画制作を委嘱しました。翌12月には印刷ポスターを発送しているので、かなり急いだ作成でした。



栗谷川健一氏（1911-1999）は北海道岩見沢出身。札幌冬季オリンピックの公式ポスターも作成しており、北海道を代表するグラフィックデザイナーとして著名です。

7. オリンピック準備事務局設置公文書

昭和34年（1959）9月16日起案



東京都公文書館だより

開催都市として東京が選ばれた5か月後、10月10日に都は「オリンピック準備事務局」(翌年7月にオリンピック準備局に組織改正)を広報渉外局に設置しました。事務局は、オリンピック開催に向けて、競技場・選手村の設置などの関連準備事業、国・IOC・JOCなど関連組織との連絡調整と、海外からの観光客対策、広報宣伝などを担当しました。

決裁欄にはオリンピック知事とも呼ばれた東龍太郎知事の印が見えます。

10. 都政とオリンピック

昭和37年(1962)

オリンピック開催準備事業の広報活動の一環として、東京都は種々の展示活動を行っています。



(部分写真)

本資料は、昭和37年(1962)10月から翌年2月にかけて都庁内で行われた展示で配布したパンフレットです。

道路の建設・整備だけでなく、町の清掃美化、生活環境整備や公衆道徳啓発など細部にわたって事業が行われたことがわかります。

11. 選手村に関する公文書～ワシントンハイツ問題～ 昭和36年(1961)10月起案

当初選手村は、埼玉県朝霞にあった米軍基地(キャンプ・ドレイク)返還跡地に建設される予定でした。しかし紆余曲折により、代々木にあった米軍住宅(通称ワシントンハイツ)を調布に移転し、既存施設を活用して選手村を設置することになりました。

終戦後16年を経てもなお、首都の中央部に巨大な米軍施設があったのです。

広大な敷地は、一部を国立代々木競技場等の用地としたほか、明治神宮に隣接した広範な部分についてはオリンピック後に森林公園として再整備し、現在都立代々木公園となっています。

20. オリンピック関連街路網図

昭和38年 東京都作成

オリンピック開催前年の道路整備状況を示した地図です。

青い線は首都高速道路、赤い線がオリンピック関連道路を示しています。



ご紹介した資料の他にも、多くのオリンピック関連資料がございます。

スポーツの秋、一度これらの資料を探訪してみたいはいかがでしょうか。

東京都公文書館ロビー展 — 当館所蔵資料にみる近代鉄道の発展 —

平成18年11月1日から、標記のテーマで、明治～昭和戦前期の公文書を中心とした所蔵資料を展示いたします。

我が国の鉄道は、明治5（1872）年新橋－横浜間で開業しました。陸蒸気（おかじょうき）と呼ばれたこの乗り物は、文明開化の象徴として庶民に受け入れられていきます。明治7（1874）年には大阪－神戸間が、明治10（1877）年には大阪－京都間が、そして明治22（1889）年には東海道線が全線開通しました。全国に広まっていく鉄道は、陸上交通機関として大きな役割を担っていきます。人や物資を運ぶ鉄道は、文化を広め、そして地域の経済発展の上でも欠かせないものとなっていきます。

東京都公文書館には、明治期以降の東京府・東京市の公文書が保存されていますが、その中には鉄道に関する公文書も多数存在します。鉄道会社設立に関するもの、路線建設工事に関するもの、保安施設に関するもの、車両に関するもの、営業に関するもの等々といった内容のものです。申請書は府県を經由して上申されましたが、申請会社本社の所在地が東京府内の場合は、東京府を經由して申請されています。ですから、当館に現存する鉄道関係文書は、必ずしも東京府内の鉄道に限られません。他県に敷設された鉄道に関する文書も含まれています。

東京の鉄道を考えた場合、人口の多い都市としての特徴が見られます。幹線鉄道とは別に、都市交通機関としての機能を持った馬車鉄道もありました。蒸気や電気を動力に使う近代的な交通機関とは一線を画しますが、転換期の交通機関として、多くの庶民が利用しています。また都市の鉄道として、路面鉄道、地下鉄道といった特徴も見いだすことができます。

以下、展示資料の概要をご紹介します。

◎鉄道開業

明治5年9月の鉄道開業に関しては、錦絵、当時の時刻表等と共に、当館に残る公文書から、新橋駅で西洋料理の食堂設置が認可されたこと、機関車の火焰から沿線火災が発生したこと、線路置き石のいたずらに困ったこと等、新しい乗り物に歓喜するだけではない庶民の姿もご紹介いたします。



（梅堂國政 東京新橋鉄道繁栄並高輪遠景）

◎路面鉄道

馬車鉄道に続き、明治30年代になると都市交通の近代化を告げる路面鉄道が登場いたします。東京馬車鉄道の後身である東京電車鉄道、東京電気鉄道、東京自動鉄道、東京市街鉄道会社等々から設置申請書が出されています。

◎地下鉄道

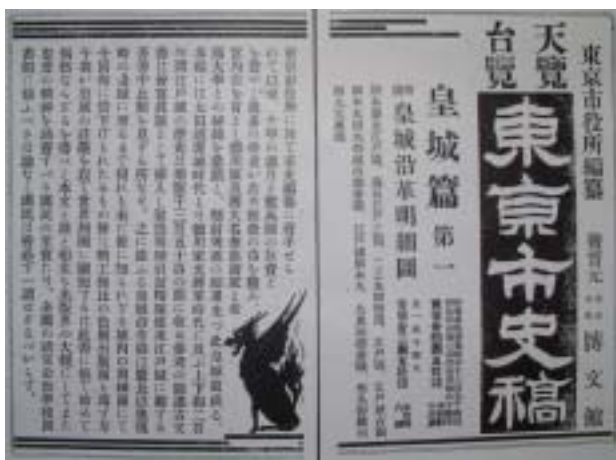
地下鉄道は、既に明治期から検討されていました。明治期末の当館所蔵文書には、地下電気鉄道の敷設方申請に対して、東京府知事から東京市会に意見を求めていたり、東京市参事会が委員を定めて調査している事が記されています。そして昭和2年に、上野－浅草間で営業運転が始まりました。

そのほか、車両、駅舎、踏切、橋梁等の設計図面や、鉄道路線図、絵はがきといった史料もご覧に入れたいと思います。どうぞご期待下さい。

新刊案内 『東京市史稿』産業篇 第47

東京市史稿とは？

当館で編さん刊行している『東京市史稿』という編年体の史料集。ご存知の方には江戸・東京に関する基礎史料集として、ご利用いただいていることと思いますが、はじめて耳にした方には、何か変なネーミングという感じがするかもしれません。実はこの史料集の編さんは旧東京市時代の明治34（1901）年に開始され、最初の巻の発行が明治44（1911）年という歴史のあるもので、『東京市の歴史』を執筆する準備のためにまず史料集を作成し、いわば「稿本」ということでこの名前が付けられました。しかし何分にも膨大な史料情報を発掘し収録してきたため、今も史料集自体の刊行が継続しているのです。結果的には基礎史料集の刊行に特化したため、いつまでも価値を失うことなく利用される一大文化遺産が築かれてきたともいえるでしょう。



東京市史稿刊行開始時の広告

（『文章世界』第7巻第2号、明治45年）

産業篇第47の刊行

東京市史稿は江戸城・皇居の歴史を扱った皇城篇から刊行を開始し、10篇171冊を刊行してきました。総頁数は16万頁を超えています。

それでは最新刊となる産業篇第47の内容をご紹介します。この巻には文化5年（1808）から同8年（1811）に至る江戸の産業・経済に関わる史料、全200タイトルを収録しています。

この巻のトピックスはなんとといっても江戸の主要な問屋を結集して設立された「三橋会所」の成

立ということになるでしょう。

杉本茂十郎という男

文化6年（1809）2月、菱垣廻船積問屋仲間の会所が設立を認可され、元飛脚問屋大坂屋茂兵衛改め杉本茂十郎が頭取に任命されました。大坂からの下り商品の輸送を担う菱垣廻船の衰微に手を打ち、その再興を図るとともに、ここに結集する問屋仲間の利益を図ることを目的とするものでした。永代橋・新大橋・大川橋の架け替えや修復を請け負うことを条件としたため、三橋会所と称されます。

この茂十郎という男、実は大坂屋茂兵衛を名乗っていた文化初年に、定飛脚問屋仲間の代表として、飛脚運賃の値上げにつながる仕法の認可のため、十組問屋らとの厳しい折衝に当たっていた人物でした（その関連史料は産業第46に収録）。

ところが、文化4年、薬種問屋の内砂糖を扱っていた者たちが樽廻船への積載を行い、十組仲間との争論が起こると、一転して十組問屋側の交渉役として活躍していきます。敵ながらあっぱれということで、江戸を代表する大問屋を集める十組問屋からスカウトされたことになるでしょう。そして彼は杉本茂十郎と改名し、家業も義弟に譲り、町年寄樽与左衛門らと結んで菱垣廻船積問屋仲間を三橋会所へと結集させ、多額の冥加金上納と米価政策への協力によって仲間の特権的地位を幕府に保証させていきます。彼の活躍と失脚の軌跡は産業篇第49まで継続して掲載していくことになりますが、彼の生家である甲州の在方史料なども組み込みながらその人物の全体像に迫るべく調査を実施しています。どうぞ、歴史史料を吟味する醍醐味を、『東京市史稿』でご体験下さい。

東京市史稿産業篇第47 ¥5,070

販売は都庁第一本庁舎3階、都民情報ルームで行っています。

郵送も可能です。直接お問合せ下さい。

都民情報ルーム 03-5388-2276

当館のご利用方法

◇ 来館について

当館の閲覧や複写に予約の必要はありませんが、次のような場合は、事前にご連絡ください。

- ・専門的な調査や、古い資料についてのご相談
- ・大量に資料を利用したい場合
- ・撮影したい場合

◇ 入館の注意点

当館1階入口で入館受付を済ませます。バッグ等お荷物をお持ちの方は、ロッカー（無料）に、筆記用具以外の持ち物を入れてください。

※鍵の紛失にご注意ください。

◇ 閲覧方法

窓口担当職員に、お調べになりたいものをお話してください。お調べの内容に沿うような目録やパソコンによる検索で、閲覧したいものを特定し、当館にそなえてあります「閲覧票」にご記入・ご提出ください。職員が書庫からお出します。

また、資料でマイクロフィルム化されているものは、原本保護のためマイクロフィルム閲覧室で閲覧をお願いします。

◇ 複写について

複写を希望される方は、当館に備えてあります「複写申請票」にご記入・ご提出ください。電子式複写は、一人又はグループで1日20枚までです。ただし、マイクロフィルムからの複写については枚数制限がありません。いずれも1枚20円で複写できます。※小銭をご用意ください。

◇ 閲覧・複写できる資料

当館の資料は原則としてご利用できますが、次のものは除きます。

- ①作成又は取得をして30年を経過していない公文書
- ②「東京都公文書館における公文書等の利用に関する取扱規程」第2条第2項又は第3項により一般の利用が制限されている次の公文書等
 - ・個人情報等が記録されているもの
 - ・利用によって破損や汚損を生じるおそれがあるもの
 - ・現に館において使用しているもの（目録作成など保存及び利用の開始のため館において使用しているものを含む。）
 - ・一般の利用に供しないことを条件として寄贈された資料

利用案内・交通案内

【利用案内】

- ①開館日時
 - ・月曜日から金曜日まで（9時～17時）
- ②休館日
 - ・土曜日、日曜日、国民の祝日及び振替休日
 - ・年末年始（12月28日～1月4日）
 - ・臨時の休館日として公示した日
- ③閲覧停止日
 - ・奇数月の第3水曜日（祝日の場合は翌日）
- ④駐車場
 - ・身障者専用駐車場をご用意しております。

利用される場合には、事前にご連絡ください。

なお、一般の方は利用できません。

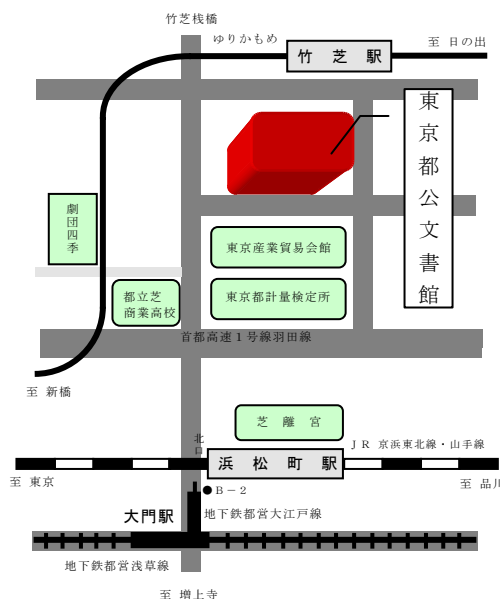
【所在地】 〒105-0022
東京都港区海岸1-13-17

【TEL】 03-5470-1334

【FAX】 03-3432-0458

【ホームページ】 <http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives>

【案内図・交通機関】



- ①JR「浜松町」駅北口（新橋方面）下車（徒歩7分）
- ②地下鉄都営大江戸線浅草線「大門」駅(B-2)下車（徒歩9分）
- ③東京臨海新交通（ゆりかもめ）「竹芝」駅下車（徒歩2分）
- ④都営バス「竹芝棧橋入口」下車（徒歩0分）
[浜95 東京タワー→品川車庫]
- ⑤都営バス「竹芝棧橋」下車（徒歩2分）[虹01 浜松町⇄国際展示場駅]

R100
各種パルプ製容器に環境に優しいインキを使用

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。